



ワイワイ
ガヤガヤ

憲法カフェ 第26回

2024年

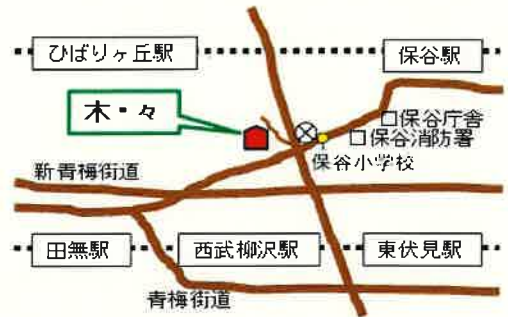
いつ? 4月27日(土) 午後2時~3時半

どこで?

コミュニティー・レストラン木々

☎ 042・425・6800

- 西武池袋線保谷駅南口から吉祥寺駅行き西武バス「保谷小学校」下車 徒歩1分
- 西武新宿線田無駅北口から天神山・保谷駅行き西武バス「保谷小学校」下車徒歩1分



テーマは? 戦争体験者の話を聞く

~子どものころ戦争だった~

参加費は? 300円(資料代+コーヒー代)

主催は? 九条女の会 連絡先: 042-425-4121

ウクライナやパレスティナガザ地区など、世界の戦争や紛争が拡大し、とりわけ子どもや女性の犠牲者が増え続けています。一刻も早い停戦を願うのみです。

そんな世界情勢の中、日本では自民党派閥の裏金問題の真相が解明されないまま、政治不信が広がっています。

政治と金の渦中、岸田内閣は、「安保3文書の改訂」を閣議決定し、この5年間で軍備拡張に43兆円、更に敵基地攻撃能力の保有、殺傷能力のある武器輸出を可能にしました。

憲法9条(戦争放棄)に抵触する事案を、国会の議論もなしに、閣議で決定しました。

解釈改憲に突っ走る岸田政権に、「新たな戦前」と不安を持つ市民が増えています。

戦争体験者が少なくなった今、戦争とはどんなものなのか、子ども時代に体験をした方々の話を聞き、戦争の実相を皆で共有し、戦争を起こさないために私たちにできることを考えます。

出入り自由。メンバーは固定していませんので初めての方もお気軽にどうぞ!

先の大戦で日本は国内外で多大な犠牲者を出したことの反省から憲法9条を制定し、「日本は戦争をしません」と約束し、この9条を実践したから、日本は戦後79年間、世界中の1人も殺していないという名誉ある歴史を築いてきたよ。



田無駅前「平和のリング」は77年前、当地に米軍からの爆撃を受け100人強の市民が犠牲になったことから、その歴史を忘れないようにと設置したの。4月12日を「平和の日」と条例で定めているよ

両親や周囲の方から戦争体験の話聞いた方もぜひ参加してください。

抑止や安全保障のためには軍拡が必要という政治家がいるけど、本当にそうだろうか、皆で考えたいね。

祖父の体験 後世に伝え続けたい

平和のハトン

大学生 大竹 菜々香
(東京都 20)

私の祖父は、太平洋戦争が始まった1941(昭和16)年に生まれました。戦渦の中、幼少期を送った祖父の当時の話を今でもよく思い出します。祖父は東京から宮城へと疎開する際、人がいっぱい列車に乗れず、屋根に乗って移動したという。祖父の口から紡がれる言葉は、私の心に深く響いた。話を聞かされた時に、戦争の非道さを考えさせられた。祖父との記憶を通して改めて思う

ことは、人から直接発せられる言葉の力は強いということだ。その口調や表情、しぐさに表れる気持ちの全てを文字で伝えるのは難しい。高齢化が進み、戦争体験者は、年々減り続けている。戦争体験者の言葉を直接聞くことができるのは、私たちの世代が最後であるかもしれない。残された時間が迫る中、私たちは戦争体験者の言葉を、風化させず、色あせさせることができないよう、どのように後世に伝え続けていくのか真剣に考えなければならぬと思う。

父語らぬ大空襲 証言映像で

平和のハトン

無職 片野 常雄
(東京都 81)

3月上旬、東京・調布で開かれた「東京空襲資料展」を見に行った。私の一家は東京の深川地区に住んでいた。戦争の激化で、母は私たち4兄弟を連れて福島の実家に疎開。造船所に勤める父は残った。1945年3月10日。父は非番で家で寝ていたらしい。焼夷弾による火の海を逃げ回り、命だけは助かった。腕や足を焼かれ、包帯姿で田舎に帰った父の姿を、私はうっすらと

覚えている。東京には戻れず、そのまま苦しい生活を送った。母は下町の楽しかった生活を何度も振り返り「戦争さえなかったら……」と嘆いたが、父は亡くなるまで空襲の夜のことを詳しく語らなかつた。

資料展では、都が90年代に収録し初公開する空襲の証言映像を見た。父の体験は、とても言葉では言い尽くせなかつたのだろう。10万人の犠牲者と、3万人もの人が殺されているパレスチナの現状とが重なり、繰り返される戦争の愚かさを思った。

本首のコラム



真金問題で自民党が39人の処分を発表したが、選挙に影響する「離党勧告」と「党員資格の停止」は塩谷立、世耕弘成、下村博文、西村康稔、高木毅の5氏だけ。「党の役員停止」以下は実害のない軽い処分だ。

1人だけ「党の役員停止」でも困る人がいた。岸田文雄総裁自身だ。岸田派と二階派は派閥で裏金づくりをしていたのだから、会長は処分されて当然のだが、二階俊博氏の「不出馬表明」のおかげで、岸田氏は自分自身を処分から外すことができた。見返りは、地元和歌山で対立する世耕氏への重い処分と武田良太氏ら二階派幹部への軽い処分

コップの中の泥仕合

だろう。武田氏と地元福岡で対立する麻生太郎副総裁は、武田氏への重い処分を求めたそうだが、岸田氏は二階派への配慮を優先したのだろう。

真金づくりの中心人物と目される森喜朗氏も不問に付された。代わりに生費にされた塩谷氏は次の選挙で引退を余儀なくされるだろう。軽い処分と温存されたのは秋生田光一氏だ。安倍派を継ぐ者として遇したのである。岸田氏は電話で森氏に事情聴取したそうだが、実は処分の相談をしていたのではないか。

すべては自民党というコップの中の泥仕合だ。何の解決にもならない。本場の課題は、パーティーも含めた企業・団体献金の禁止と政治資金の使途の透明化だ。審判を下すのは国民である。(現代教育行政研究会代表)